



クラブ創立 1968年2月12日

2019~20年度

国際ローターテーマ

ロータリーは

世界をつなぐ



国際ロータリー第2520地区 Rotary International District 2520

大河原ロータリークラブ会報

ROTARY CONNECTS THE WORLD

2019-20年度 RI 会長

例会日：毎週木曜日 12時30分 会長：藤江裕佳里 広報・ICO

例会場：和洋亭 ぶざん

副会長：甘糟 仁 委員長：佐藤能文

マーク・ダニエル・マローニー

柴田郡大河原町字新南25-18

幹事：佐々木由美子 副委員長：岡崎 隆

2019-20年度 ガバナー

TEL 0224-51-1113

副幹事：武者 昌洋 委員：庄司 大 鈴木 賢

NO.1

事務所：〒989-1245 大河原町字新南25-18 TEL0224-86-5901 FAX0224-86-5905 info@rotary-ogawara.com

2020年 1月30日(木)第2539回 例会

会長あいさつ

会長 藤江 裕佳里



こんにちは。今日も皆様と例会を共にできることを嬉しく思います。

さて、今日は大河原町町長の齋 清志様をお迎えしてお話をお聞きします。

今期は大河原町の様々な仕事をこなしている先週の瀬戸税務課長をはじめ個々の話を伺いましたが、今回は大河原町民の幸せのために先頭に立ち日々活躍されている町長ですので、「町政トップとしての今年の抱負」という題ですがどのようなお話が伺えるか楽しみです。後程宜しくお願い致します。

大河原町のことについては今日お話を伺いますが、年明けにはあまり話題にも上がりませんでした。世の中は新型コロナウイルスによる肺炎の拡大を受けて大騒ぎです。鎖国の時代とは違いグローバル化された現在良いことも悪いことも世界中に拡散するようになり、直接間接に私たちの生活に影響をおよぼすことを実感させられる日々です。自分のことだけでなく広く世界に目を向けて過ごしていくよう心掛けていかなければと思っています。



「シェアド・リーダーシップ」それぞれの力を合わせて

大河原ロータリークラブ 藤江 裕佳里 会長

マイルBOXの報告 武者 昌洋 副幹事 10名 19,000円

甘糟仁・小田部晃二郎・櫻井淳一・佐々木伸明・佐藤克美

高橋尚敏・藤江裕佳里・森徹・武藤茂・八島幸夫

米山BOXの報告 山家 正信 副委員長 2名 7,000円

甘糟仁・佐々木伸明

出席の報告 津田 政行 委員長 会員数名 26名の出席 74.29%

本日のスピーチ

【町政トップとして今年の抱負】 大河原町 町長 齋 清志

1月も終わりにになりましたが今年初めての方も、お出いでになりますので新年の挨拶を、させていただきます。

日頃のロータリー会員の皆様が、それぞれの立場で町政への協力を頂き、本当に感謝しております。

今般の世相や世の中の動きは、暗いことばかりで、残念に思います。

他の市町村にも呼ばれて話をすることもあるが、今は控えている大河原町の現状について少し話しますと、仙南の人口が減少して昨年2019年9月で17万人であること。今も減少が続き年間500人位、各市町村で減少傾向にあります。そんな中で大河原町は、300人の方が亡くなり200人位、生まれて来て、その自然減を若い世帯が流入する社会増で補う結果となっております。

昨年の商業売り上げも430億位で維持されており、仙台や中央の資本が流入して来ておりますので個々の経営は大変かと思いますが税収も維持されている状況です。

28年29年30年と住宅が建てられ、31年も9月現在で、160軒着工されているということは、人口の流入があり、固定資産税の増加などで税収の総額が維持されておりますので、お陰様で恵まれた状況にあり住宅着工件数の安定した伸びや、国道4号バイパスへの商業の特徴と潜在力が高まった証と受け止めております。

以上、仙南の他の市町村との違いがありまして、大河原町だけがということもありますので、あまり他では、話しすることは出来ません。

しかし、昨年の台風19号や地域医療など仙南地区の連携は欠かせない状況にあり現在も昼夜、丸森町への職員派遣で支援を継続しております。

また、医療の問題もあり近日中に地域医療構想について課題を抱える医療重点地区指定ということで赤字を抱える中核病院と刈田病院との急性期医療と慢性期医療の住み分け等についての取り組みが始まること。更に今年10月からの中核病院での分娩が出来なる問題は分娩だけでなく人口問題にもかかわることなので今後も取り組んでいく課題と考えている。

しかし、いずれの課題も住民理解が必要であり、よく説明をし理解をしてもらい進めていきたい意向である。良いことばかりのように見えるが、大河原町でも孤独死が増えてきておりまして、行政区の格差も見られるようになり、今後のキーワードはつなぐ・つながる・つなげる等、人と人との繋がりをより大切に整備していくことが、大きな課題になって来ており社会環境や価値観が複雑に変化する時代となって、人と人・人と地域・地域と地域も繋がりにくいという現実が危惧されています。改めて社会包摂

に目を向けて人々を孤立させることのないように「認め合い、支えあい
活かしあう」社会の仕組み作りが強く求められていると感じております。
人々の幸せの為に、原点を見つめて進めて行きたいと思えます。